

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原料料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 期限	感染症(PID)	出典	概要
												エボラ出血	CDC/Travel Notices 2007年12 月27日	ウガンダ西部Bundibugyo地方におけるエボラ出血熱のアウトブレイクは早ければ2007年8月に始まった可能性があるが、2007年12月16日時点で、124例が罹患し、35例が死亡した。患者由来検体の遺伝子解析により、既知の4つのエボラウイルス株とは異なる新たなウイルス株が示された。CDCは旅行者にエボラ患者と接触しないようになどの注意を呼びかけている。
2008/02/27	70933	化学及血 清療法研 究所	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン		抗破傷風人 免疫グロブ リン	ヒト血液	米国	有効成分有	無	無	無	デング熱	CDC/MNWR 2007; 56(31): 785-789	2005年7月にデング出血熱(DHF)症例1例がTexas州Brownsvilleの住民において報告された。2005年8月に隣接するメキシコTamaulipas州の保健当局はデング熱症例1251例が発生しているデング熱のアウトブレイクを報告し、内223例(17.8%)がDHFであった。臨床的および疫学的調査の結果、同地域でのデング熱アウトブレイクに伴うDHF症例の割合は、2000-2004年はデング熱症例541例中20例(3.7%)であり、増加していることが明らかとなった。
												チクングニアウイルス感染	PLoS Pathogens 2007; 3: 1895-1906	2005-2006年にレユニオン諸島でアウトブレイクしたチクングニアウイルス(CHIKV)感染は、エンペロー蛋白遺伝子の変異株(E1-A226V)が関係していた。この変異の、ネットアイヌマカおよびトスジシマカにおけるCHIKV適合性に対する影響を調べた。その結果、CHIKVのヒトスジマカに対する感染性が有意に増加し、哺乳マウスへの伝播がより効率的になることが明らかとなった。通常のベクターであるネットアイヌマカがいない同地域でCHIKVが大流行したのはこの変異が原因と考えられる。
												エボラ出血	CDC 2008年1月8日	CDCとウガンダ保健省は、2007年9月から始まったウガンダ西部に位置するBundibugyo地区におけるエボラ出血熱のアウトブレイクを報告した。2008年1月3日までに148人が罹患し、37人が死亡した。患者検体の遺伝子解析により、既知の4つのエボラウイルス株と異なる、新たなウイルス株である可能性が示唆された。確定には更なる研究が必要である。
												鳥インフルエンザ	China View, www.chinaview.cn 2008-01-10	2007年12月に江蘇省南京で発生した52歳男性の鳥インフルエンザ感染患者は、患者であった息子との濃厚な接触により感染したものであり、ウイルスの変異は認められていない。しかし、息子と父親はいずれも死亡した家禽との接触がないため、鳥子の感染源は明らかになっていない。息子は11月24日に発症し、12月2日に死亡し、父親は12月3日に発症したが回復した。ヒト用トリインフルエンザワクチンは臨床試験Phase IIの段階にある。